

三小だより

新潟市立新津第三小学校

NO. 1

令和6年4月18日（木）

三小の良さが

校長 戸田 道治

4月から校長としてお世話になります戸田道治（とだ みちはる）と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

赴任前、誰に聞いても「三小の子はすばらしい」と言われました。

4月5日（金）、子どもたちとの出会いの日に、それがお世辞ではないことがすぐにわかりました。

1 静寂の緊張感

この日は、着任式後に始業式が続き、体育館での集会は長時間にわたりました。その間、子どもたちはずっと床に座り続けることになりましたが、集中力を切らさず、ずっと静寂を保ち続けることができました。我慢強さ、集団として規律を保つ態度、これが最初に感じた印象でした。

2 校歌の歌声

私はここで初めて三小の校歌を聞くことになりました。校歌のきれいな旋律にふさわしい歌声が響き、感激しました。とかく全校で歌う校歌は、1・2年生が《元気さ》で引っ張りがちですが、三小は違いました。高学年でもきれいな歌声を大事にする姿勢が伝わりました。

3 1年生教室の絵

子どもたちの下校後、翌週に控えた入学式に向けて、1年生教室では受け入れ準備がなされていました。各教室の背面には、現2年生が描いた絵が掲示されていました。どの教室にも30枚近い絵が掲示されていたのですが、1枚残らず全て、子どもらしく楽しそうな絵でした。子どもの絵からは、その子が楽しんで描いたかどうか、一生懸命やったかどうかストレートに伝わってきます。

学力を上げようとして、国語や算数、社会や理科に特化して取り組ませても、実はなかなか効果は上がりません。音楽や図工は、学力には直接関わりがなさそうですが、そういうものにも喜びを感じながら打ち込める態度（人間性）は、結果的に学力を向上させます。集団の力は、一人では難しいこと、あきらめそうなことを押し上げる力になります。

「三小の子はすばらしい」——その理由が始業日のこんなところに顕著に現れていました。「どんなことでも、ちゃんとやろうとする気持ち」が一番尊いのです。

このような子どもの気持ちを大事に、子どもを伸ばせる学校づくりを進めてまいります。